

ヒーローの時間(上演版)

前川孝二・吉田知世原案 瑞浪高校演劇部 作

A	女子高生	正義の味方1	薬師寺八千流
B	女子高生	正義の味方2	森川彩香
C	女子高生	正義の味方3	日比野ミライ
D	女子高生	正義の味方4	古河ゆの
E	女子高生	正義の味方5	野沢光
F	女子高生	正義の味方6	加藤成実
G	教師	悪の親玉	如月悠
H	戦闘員	ニヨロニヨロ	手越祐里
I	戦闘員	イタコの女子高生	伊藤由希
J	戦闘員	委員長	成瀬静香
K	女子高生	正義の味方7	鈴木椎名
L	転校してきた女子高生		佐藤真実子
M	食堂のおばさん		尾崎多佳子

MEと共に幕開け

緞帳上がりきるとME、FO。薄暗い青舞台。

壁などの大道具なし。教室の机椅子が何セットか並んでいる。舞台上には六人の女生徒A〜F。

赤のホリゾントによってシルエットで浮かび上がる。机や椅子に上がって三角形に上下の位置を作っている。
以下の歌を全員必死の形相で力一杯歌う。

E セーのっ！

六人 チャーチャッチャ チャーチャッチャ チャッチャチャー チャッチャチャー。

A (ゆっくり顔を上げて) セブーン。

B (ゆっくり顔を上げて) セブーン。

C (ゆっくり顔を上げて) セブーン。

D (ゆっくり顔を上げて) セブーン。

六人 (明るくなる) セブーン！ セブーン！ セブーン！ セブーン！ セブーン！

A B はーるかなほしがー、

E ジャラランジャララン！

A B ふーるーさーとーだー。

E ジャラランジャララン！

F ウルトラー

C D セブーン

F ファイター

C D セブーン
A B ウルトラー
E F セブーン
E F C D セブーン セブーン
六人 進め 銀河の果てまでも ウルトライでスパーク！

六人左右対称の位置取りで、各自スペシウム光線のポーズをとってストップ。Aだけは額に手を当ててエメリウム光線。(二十世紀少年風) A、ふと気付いて後ろを振り返り、

A それ…、ウルトラマンじゃね？
五人 あ…。

照明、地明かりに変わる。ばらばら六人動き、各自、座ったり立ったりで雑談を始める。

A それにさあ、あんまりにも古くない？ 知ってた？
B ウルトラーマン系って、女の子見ないんじゃない。
C いや、見るって！
B あ、例外がいた。
C ま、でもやっぱり、タロウの方が良かったかなあ。
D 太郎！？

C そ、ウルトラマンタロウ。「ウルトラマンナンバーシックス！」
E どういうネーミングだ。
C いや、あのね。本格SFの味わいが一番あるのはセブンなんだけど、活劇としてよく出来てるのはやっぱりタロウなんだって。
A あんまマニアすぎる方向行ってほしくない。
C いやいや、格好いいんだって。待って待って。
C、靴の方へ走って行って、タロウの角のついたカチューシャを取り出し、自慢げに付ける。

C ほら！
A ほらって言われても。
B 鬼？
C えっ？
D 牛？
C は？ いやこれ、ウルトラマンタロウの角。「ウルトラホーン」。
E 角あんの？
B ウルトラーマンに？
C そう。
D かわいくない。
C ウルトラーマンにかわいさ求められても…。

D 全てのものはかわいくあるべきなの！
F あのさあ。

みんな、Fを振り向く。

F あたしたち、別に特撮同好会作ろうって言うんじゃないんだからさ。もっと実際的なこと話さない？
A そだね。
C 実際的って？
F あたしたちがどうやって正義を行うか。
E うわ、いきなり核心から行く？
F 声でかつ。
D いいかげん、距離感覚えろって。
A いきなり核心っていうけど。
B それ以外に何かあるっていうの？
E どうやって正義を行うか。
C そりゃ、怪獣と戦うってことでしょ。
E 怪獣いないし。
C じゃ、悪の組織。
D 悪の組織？
A 学校に？

E どんな？

皆、中空を見上げ、妄想に入る。禍々しいME。照明、青舞台。上手にサス。上手から、いかにも悪の親玉という感じの人物G、戦闘員HIJを引き連れて登場。

G グハハハハハハ！ 地球をどうにかして征服してやるっ！

A どうにかして？

B 計画立ててから来いよ。

G ちゃんと立ててあるわ！ おい！ 地獄のアナグマ作戦その一だ。かかれ！

戦闘員たち、「イー！ イー！」と言いながら、あちこちの椅子の前脚を机の横棒にひっかける。仕掛け終えて、戦闘員たち、Gに敬礼。

G フッフッフ。これで明日学校に来た奴らは、『あれ？椅子が出せない』ってなるぜ。

戦闘員たち、抱き合って恐ろしがる。

G さあ、作戦その二だ！

戦闘員たち、上手にひっこみ、食堂のおばちゃんMを拉致してくる。

M (口をふさがれていても「ごもご」叫ぶ)

G 食堂のおばちゃん！ 今日の定食にこれを混ぜるんだ！

M (必死に首を振る)

G (チャラララッチャラー ドラえものの音) X O 醬^{ジャン}！

M (驚いて瓶を見つめる)

G フフフフ。みんな一口食べて、『あれ？ 何この豊潤な味わい？』ってなるぜ。

戦闘員たち、抱き合って恐ろしがる。Fをのぞく五人、順番に立ちあがる。

A 許せないわ！ ザリガニ魔人！

G え？ ザリガニなの、おれ？

B 月に代わっておしおきよ！ ギャラクシア！

G は？

E フリーザ！ オラが相手だ！

D キヤシャーんがやらねば誰がやる！

C ジョワ！

G お前ら、めちやめちや混じってるぞ。

Fがパンパンと手を叩く。照明戻る。

F はいはい。妄想終わり。

五人、もとの位置に戻る。悪役たちも上手に退場。

E ま、そんなやつあいねえって話だよね。

C 学校は平和そのもの。

F は？

C 何？

F 本気でそう思ってるの？

D どういうこと？

F 高校だって学校だよ。学校である以上、平和なはずがないでしょ。じゃなきや、あんなことが起こるはずがない。

間。

A 数…じゃないかな。

B え？

A もっと数を集めること。正義を行うために。

D 確かに。

C セブーンって歌ってるのに、六人しかいないし。
A そうじゃなくて。
C え？
F そうだね。確かに数があるよね。じゃあ。
F、机から紙を出して、マジックで大きく字を書く。皆、それをのぞき込む。

B 「正義の味方募集。」
D もうちよつとかわいい字にしない？
E 張り出すの？
F まさか。
B じゃ、どうする？
F この子たちならって思うグループに回覧してもらおう。
A 携帯の掲示板よりいいかもね。
他 うん。
F じゃあ、段取りは…。

話し合う六人を見せながらゆっくり暗転。ME。あちこちにサスが点き、六人が、いろいろな生徒にピラを示して、説明をしたり、勧誘をしたりしている無言劇が展開。溶明。教室風景。生徒があちこちでだべっている。

H あー、なんか面白いことない？
I ないねー、毎日毎日まったりとした日々。
J 情けないわね。覇気がないのよ、あんたたち覇気が。
H なんでそう、無駄にキビキビできるわけ？
J あんたこそ、なんで無駄にニヨロニヨロしてるわけ？
H ニヨロニヨロしてる？
I はい、ニヨロニヨロして〜。
H ニヨロニヨロ〜。
J くだらない。
H いいじゃん、どうせ毎日くだらないんだから。
I いっそ何か大事件とか起きないかなあ。
H だよねえ。
J ちよつと！ 何不謹慎な。
I だって、平和過ぎる毎日をサバイバルするのも大変なのよ。
J もうっ、これから沖繩行く者の発言か！

その様子を、六人は複雑な表情で見ている。チャイム。教師G、下手から入ってくる。

G はい鳴ったぞー、席付けー。じゃ、挨拶。

J 起立。礼。
G はいおはよう。
J 着席。
G さて、みんな来てるかな、と。ん？ 田代がいないか？ どうしたんだろう。

SE。I がぶるぶるとふるえて、何かを取り憑く。

H うわ、今日は朝からか。
J も、勘弁して。

I、中央に進み出る。ME。

I んー、確かにこれは不自然です。今まで、欠席はおろか、体育の見学もしたことのない田代さんが突然の欠席。誰しも、田代さんのことを気にかける、しかし！ 犯人の狙いはそこにあつたのです。田代さんの欠席に注目したためにできた心の隙、はい、ここです。ここに、恐るべき犯罪が行われる舞台が生まれたのです。

C (I がしゃべり始めてからほどなく、ひそひそ話) 誰？

D 分かんない。

B たぶん…。

C 分かんのか？

B 古畑。

C 似てねーっ。

H いや、物真似じゃないから。

D あ、そっか。

F 憑依現象。

G なんとかならんのか、これ。

J 霊能力強烈ですから。お父さんが恐山のイタコの家系。お母さんが沖縄のノロの家系。

G だからって、毎日とりつかれんでも。

I …古畑任三郎でした。

I、席に戻ろうとする。

G ああ、警部補、今日日直な。(ME止まる)

I (Jに) 今泉君、受け取って。

G 職権乱用は認めん。

G、Iの頭をはたく。I、我に返る。皆、うっすら笑う。

G 修学旅行まであと一ヶ月切った。各班、研修計画をそろそろ固めておくように。それから、国語は「太陽の子」の授業のまとめに入るから、最後の部分、繰り返し読んでイメージ具体化しといてな。

E そっかあ、あと一ひとつ月かあ。

H 青い海、青い空！

D 楽しみ！

G あ、それから、朝のショートには間に合わなかったようだが、今日転校生が来るから。

皆 えーっ！

H どこから？

G いや、そんなに遠くからじゃない。

F 近くからの転校生？

G まあ、話は本人が来てからだ。じゃ、挨拶。

J 起立、礼。着席。

G が出て行くと同時に、教室は騒然となる。やがて六人以外は上手からトイレに行ってしまう。そんな中、下手から、Kが入ってくる。

K ねえ。

六人振り向く。

K これ、あんたたちが回した？

A うん。

B 入ってくれるの？

K っ、ちよつと正体が知りたいかなと思って。

C 正体って。

D 読んだそのままだけど。

K 「マサヨシの味方」。

A …マサヨシ？

B 真下正義。

C 交渉人！

D っ、あ。孫正義。

E 誰？

F ソフトバンク創った人。

E へえ。

A じゃあ…、山崎まさよし！

その間に、Cが上手からギターを受け取っている。演奏を始め、皆で歌い始める。

皆 つつまりは、単純に君のこと、好きなのさ。

Eが飛び出してきて、早口言葉。成功してみんな大騒ぎ。

K 長いよ！ あたしのボケでしょ。なんであたしがつつこんでんのよ。
A ま、実際好きだからさ、山崎まさよし。
D あたしは、EXILEだけ。

ME。また六人でEXILEを踊り始める。いつの間にか、食堂のおばちゃんMも加わって、ひときわノリノリで歌い踊っている。やがて皆気付いて踊りをやめるが、その視線の真ん中でMは踊り狂っている。M、はっと気付いて、ダッシュで駆け去る。

K : 要するに何？ 歌声同好会？

D ま、歌も好きだけど。

E 命がけで歌ったりするけど。

A 基本は正義の味方。

K 戦うわけ？

B 場合によっては。

K 技とかあるの？

C 技ねえ。

F (Eを指して) この子、カメハメ波撃てる。

E ええっ？

K 「ええっ」って言ってるけど。

A はい、じゃあ、カメハメ波まであと5秒。

皆 4！ 3！ 2！ 1！

照明変わる。

E かー、めー、はー、めー、はーっ！

ごく軽い「ポン！」という音がする。照明戻る。

K 何が出た？ ねえ今何出した？

F あと、この二人(A・C)は剣術使い。今日の勇者はどっちだ？

ME。AC二人、柄を握った格好をすると、「シャキン」と音がして、剣が現れたらしい感じ。二人、向かい合って、しばらく戦う。Cの一撃をDがよけると、どどかに剣が当たって、ひどく破壊されたらしい音。

K え、大丈夫？ 何か壊れた？

Dが進み出て、長いものを持つような手の動きをすると、音がして、何か伸びた様子。さらに、下に手がかざすと、音が出て、何かが出てきた様子。下に出てきた何かの取っ手を持って引き寄せると、長いものを斜めに持って、「シャッシャッ」と音をさせながら掃き始める。

K おおっ、掃き集めてる！

その隣で、B、少し重そうなものを「ブオン」と出す。履き集めたものをその持っているものの中に、入れる。全部入ったところで、フライ返ししながら炒める。「ジュー」という音がする。

K 焼いてる？

焼き上がったものを、とんとんと皿に移す。Bから渡されて、Kは見えない皿をおそるおそる受け取る。しかたなく食べて、微妙な顔。「ジャリジャリ」という音。

E 食べた！

A C あなたこそ、真の勇者だ！

F っっていうのは、まあ置いといて。

K は？

F うちの高校の治安ってどう思う？

K 治安？

E 平和かどうかってこと！

K 声でかつ。ま、正直いろいろあるけどさあ、まあ、中学校と比べたらね。

B 中学校？

K けっこうやばかったから、いじめとか。

D そう！ それ。あたしたち、みんな同じ中学なんだけど、ひどかったの。

A だから、もう二度とあんなことにならないようにって。

C いざとなったら正義が行える仲間ができるだけほしいの。

K そういうことかあ、正義の味方って。で、具体的には？

F まだだけど、どう？ 趣旨は賛成してくれない？

K いいよ。単純に友達増えるのもうれしいし。

A よかった。

F じゃ、できるだけちよくちよくこの教室のぞいてくれる？

K いいよ。

D クラスの立場悪くなんない？

K うん、今の友達、ねちねちしてないから。

B そっか。

上手から、ぽんぽんとバレーボールが弾んでくる。C、キャッチする。ME小さく入る。みんなでボールをのぞき込んで、一斉に息を呑む。Kは怪訝な顔をする。やがて、上手からLがやってくる。

L あ、ひさしぶり。

六人と見つめ合う。MEが大きくなる。暗転。下手サス。Aが通りかかる。サスの外で呼び止める声。

G 薬師寺。

A、振り向く。サスの中にGが入ってくる。

G ちょっといいか。

A はい。

G えーとな、これなんだけど。

Gがポケットからピラを取り出す。

A !

G 君らの名前が書いてあるな。

A …何か問題でも？

G いや、別にそういうわけでもないんだが、えーと、「まさよしの味方」…か。

A、固まってGを見つめる。G、ものすごく得意そうな笑顔で見つめ返す。

G ほら、これ笑うとこ…。

A そのボケとつくに終わりましたけど。

G、しばらくAを見つめているが、おもむろにしゃがみこみ、地面にうずまきを描き始める。さらに、ころんと横倒しになると、その辺をころころ転がり始める。A、しばらく見ているが。

A しっかりしてください。大人でしょ。

G、起き上がって。

G で、この正義の味方ってのは…

A 何もなかったようにごまかさないでください。

G どうすりゃいいんだ。

A 別に。それじゃ。

G ちよちよっ、待った待った。どうしたおまえ、この頃いらついてないか？ 物言いもきつくなってる。なんかあったか？

A 別に。

G もしかして…。

A もしかして？

上手の暗闇から声。ME。

B はーっはっは。

G 何だ？

上手サス。中にBが黒いノートを手にして立っている。

B 原因はこのノート。

G 黒いノート。まさか、それは！

B エスノート！

G エスノート？

B (Gの名前を書きながら) 名前を書かれると、誰でもドSになってしまうという恐ろしいノート。
ぐわあつ。

G、苦しみつつ変貌する。

G おらおらおら、言うことを聞けえつ。

A 先生！ ああつ、どうしよう？

D はーっはっは。

上手サスの中に、D、黒いノートを持って入ってくる。

A それは？

D エムノート！

A エムノート？

D (Gの名前を書きながら) 名前を書かれると、どんなドSもドMになってしまうノート。

G ぐわあつ。(なよなよして) イヤん。

D これで元通り。かわいっ。

A 戻ってないって！

F はーっはっは。

上手サスの中に、F、黒いノートを持って入ってくる。

A まだ何かあんの？

F エルノート！

G エルノート？

F (Gの名前を書きながら) 名前を書かれると、誰でもLになってしまうノート。
ぐわあつ。(椅子に乗り、ポケットからペロペロキャンディーを取り出し、携帯を指でつまんで)

もしもしライトくんですか。

A ああつ、このままでは世の中はSかMかLばかりになってしまおう！

F ま、服のサイズはだいたいそんなもんだけどね。

D まあね。

A、皆のいる上手サスの方へ移動。

G 待ってくれ。結局、この正義の味方ってのは何をやるつもりなんだ。別に。

D 大したことじゃないから、安心してください。

B 迷惑はかけません。

G もしかして、見回りして煙草見つけるとか、そういうことか？

F あー、そういう発想かあ。

G そういうことなら、先生に任せて、な？

F 先生のテリトリーは犯しませんから。

G でも、正義の味方なんだろ？ あ、こうしないか、先生も仲間に入れてくれ。

皆 えーっ？

G そうだ、そうしよう。何かやるときは必ず呼んでくれ。一緒に正義をしよう。

A 先生、何がそんなに心配なんですか？

G イヤ、別にそんな。

F 分かりました。必要な時は必ず。

G ウン、分かった。遠慮なく、な。

下手サス消える。上手サス広がる。残りの三人も合流。

F というわけ。

C ふーん。

E で、どうすんの？

F どうもしないよ。あるとき、先生が何かしてくれた？

A たしかに。

B そうだった。

K そうだったって？

F また話すよ。

B でも、本腰入れていかないと。

C うん。

D あの子が来た以上。

暗転。ME。

溶明。教室風景。

J 佐藤さん、光が丘高校にいたんだよね。

L うん。

H なんでこんな近くに転校？

L 私立の学費ってシャレになんなくてさ。通えなくなっちゃったわけよ、家計の事情ってやつで。

H ふーん。大変だね。

J でも、安心して。ここは居心地の良いクラスだから。
L ありがとう。

J 修学旅行の班、あたしらと一緒にならない？

L え？ いいの？

J もちろん。

I さすが委員長。

L よろしくお願いします。

H こちらこそ。アクアト。 (Iの顔をいじって) ヤドクガエル。

I この変なヤツはスルーでいいから。

H あんただけは変とか言われたくないし。

J 引き分けー。で、佐藤さん、うちは？

L うん、そんなに遠くない。てか、もともと地元だし。あ、あの子たちと中学一緒。

J あ、そうなの。(六人を振り向いて) ねえねえ、知り合いだって？

A …あ、うん。

L 部活も一緒だった。

H ええっ！ じゃ何？ 運命の再会じゃん。ジャジャジャジャーン。

L まあね。でも、あの子たちが一緒にいるんでるってのが、私には驚きだったけど。ね？

六人、下を向いて黙る。周囲はた不思議そうな顔をする。突然SE。I、ぶるぶるっとなる。ME。一度縮こまって、ぐっと手足を伸ばす。

I 手出た！ 足出た！ 宗介んところ行くっつ。

I、上手に走り出す。

H 待って、ポニョ。

J 待ちなさい、ブリュンヒルデ！

二人、Iを追いかける。Lも、ちらっと七人を振り向いて、追いかけて去る。

K ねえ、どういうこと？ 一緒にいるのが驚きって。

A …たぶん、聞いたら引くよ。

B 聞いても、あたしたちとられる？

F …いいよ。

D え？

F 聞いて、だめだと思ったら抜けてくれていいから。

K …分かった。

F 私たち、あの子も含めてだけど、中学校の時ね。バレー部だったの。

K へえ、体育系だったんだ。

B っっていうかねー。

- C 女子の部活三つしかなかったし。
- D 吹奏楽と、ソフトと、バレー。
- E みんな、ほとんど消去法で決めてた。
- K ああ、なるほどね。
- F でね、女子バレーってさ、うちだけかもしれないけど、一種特別な空気があるんだわ。

いつの間にか、Cがギターを用意している。E、「アタックナンバーワン」のテーマをしみじみ歌い始める。

- E 苦しくなったって。(以下続く)
- F ○○はさあ、小学校の時からやってて、学年の中では一番うまかったわけね。
- K ああ、なんかそんな感じするね。
- F で、逆に一番ヘタだった子がいてね、今かなり離れた高校行ってるんだけど、その子をバカにするわけ。
- B 失敗するたびに、ひそひそ笑ってね
- F で、その子もたまらないから、あのさー！

その頃には、Eの歌がかなり盛り上がっている。突然、青舞台。Eはサスの中で。

- E だけど、涙が出ちゃう。女の子だもん！(照明戻る)
- F もうBGMのレベルじゃないんだけど。
- E あ、ごめん。

- F …その子はね。
- A 三年生の先輩にくっついたわけよ。
- D まあ、自衛手段ってとこ。
- K なるほどね。
- F でも、三年生はすぐ引退じゃない。
- K あっ。
- A 反動がきちゃってさあ、それからひどかったんだ。
- B で、学校来なくなっちゃって。
- K ひええ。
- F でも、誰かを攻撃する空気がって、一度できちゃうと止まらないんだ。
- A 次の標的がいるわけよ。
- B それで一定期間ずつ順番にいじめられてったの。
- K 何それ？ え？ ってことは？

Cのギターが高くジャラン！と鳴る。

- F そう。あたしたちはみんな、順番にあの子にいじめられた。
- K !

ME。

A 一人二ヶ月ずつ。
B 合計一年間。
C 役割はある日突然代わった。
D 代わった時、初めて分かる。
E ああ、次は自分なんだ。
F 地獄が始まる。
A 受けきれない量のサーブが集中的に飛んでくる。
B 自分の時だけ、トスを上げてくれない。
C パスの相手が誰もいない。
D 練習が終わっても誰も話してくれない。
E シューズが隠される。
F 悪口メールの嵐。
K : ひどい。でも、え？ あの子、あんな平気な顔して。あれ？ 何？ あたし何かひっかかる。
D そう。ひっかかるはずだよ。
K なんだろう？
A あたしたちが：六人いるってこと。
B 一人がいじめられてた時、ほかの五人はどうしてたか。
K そう！ それよ！ 正義の味方なんでしょ、助けてあげたんですよ。
F ううん。：自分の番が終わると、今度はいじめる側に回ったの。

M E。照明変わる。Kは振り向く。その視線の向こうで、六人、正面を向いて固まる。暗転。
溶明。暗い青舞台。中央サス広めに点く。Jが銃を構えて、子どもを抱えて倒れているHに突きつけている。その周りには多数の住民がうずくまっている。爆撃音がして、皆、ふらつく。

J そら、米軍はすぐそこまで来てるぞ、見つかったら皆殺しだ。
H 皆殺し…。
J 早く赤ん坊を始末しろ。
H そんな！ できません。
J 泣き出したらどうするんだ。
A 無茶だ。
B そうだ。赤ん坊は泣くもんだ。
J うるさいっ。俺たちはお前らを守りに来てやってるんだ。わざわざこんな沖縄まで来て。
A わしらが頼んだわけじゃない。
J 何！ 貴様、もういつペン言ってみろ！
C 年寄りのたわごとです。見逃してください。
J 馬鹿野郎。こんな所でこんな連中と死んでたまるか。おいっ、早くしないか！
A あんたら、わしらを守りに来たんじゃないのか。なんでそのわしらの子を殺すんだ。
J 我々は正義の軍隊だ。多くの日本人を生かすために、我々が生き延びねばならん。
A あんたが生き延びるために、子どもに死ねというのか！

J 正義のためなんだ。お前らもそんなわずかな犠牲をためらうんじゃない。
B わずかな犠牲…。
J さあ、早く！ なんなら、俺が突き殺してやろうか。
B 何い！
H 待ってください！ 分かりました。皆さんにご迷惑がかかるなら、せめて私の手で。
C トミさん！
H ケイちゃん、ごめんね…。

照明、地明かりに変わる。

G はい。しっかり読み込んでイメージできたね。よく頑張った。
J 先生、ほんとにこんなふうだったんですか。
G うん、「太陽の子」のラストでろくさんが言ったことは、当時の沖縄のあちこちで起こったことなんだ。
H ひどい。
A うん、ひどいね。同じ日本人なのに。
G でも、当時の教育は御国のために生きること、もっと言うと、御国のために死ぬことが正義だって徹底的に教えていたからね。
H ふうん。
J どう？ 平和がイヤだって言ってた人。
H 今言わなくていいじゃん。

SE。I、ぶるぶる震え、突然立ち上がり、敬礼して直立不動で「教育勅語」を唱え始める。

C うわ、何？
G ああ、これは教育勅語だ。当時の小学生はみんな暗唱させられたんだ。
H 誰がとりついてるんだろ。
L どんな意味？
G 家族みんな仲良くして、立派な国を作りましょうって、まあ、間違ったことは言っていないよ。というか、こういうことをたたき込まないから日本がだめになったんだって、教育勅語を復活させろって人は、ずいぶんいるらしいし。
F 昔は、みんな正義をたたき込まれていたってこと？
G まあ、そうも言えるかな。
D それでも戦争は起こったんだよね。
G そうだね。
C 正義なのに…。
G …日比野、正義って何だ？
C え…、弱い者いじめを絶対しないと、間違ったことをしていたら注意するとか。
G じゃ、悪は？
C その逆。
G そこがねえ、よく分からないんだ。

F どういうこと？

突然、ME。G、突如悪の親玉に変身し、教卓の上に飛び乗る。

G ギャハハハハ。世界を征服してやる！

ME消える。皆、あっけにとられている。しんとした空気の中、GがCに目配せして、「かかってこい」と合図する。Cは必死に顔の前で手を振るが、抵抗しきれず仕方なく。

C ゆ…、許さないぞ！ 俺が相手だ！（棒読み）

G こしゃくな。俺の邪魔をするとはいい度胸だ。勝負！

勇ましい闘いのME。二人、激しく闘う。

G 日比野ミライ、貴様、何のために闘っている？

C え？ あ、悪を倒すためだ。

G 俺は悪か？

B 世界征服するっていったじゃん。

G 俺の星は滅びちゃったんだよ。住むところが要るんだよ。

E 勝手言ってるじゃねえよ！ ここは俺たちの星だよ。

G じゃ、俺たちは死ねることかよ。

E いや、それは…。

G 俺たち生きてくためには、世界征服するしかねえんだよ。まず生きてかなきゃ、正義も何もねえだろうが。これは、「俺たちの正義」の闘いなんだよ。

C ふざけんな、何にも悪いことしてねえ俺たちに闘いしかけて、何の正義だよ。

G 忘れたのかよ。てめえら日本人も海の向こう攻めてったろうが。アイヌの土地、日本にしちまって、沖縄、米軍基地だらけにして、関係ねえって顔して暮らしてるだろうが！

C ちよつとすみません。バンバンつばかかってるし。

B 何、本気で怒鳴ってますか？

A 大人げな。

G あ、ごめん。

D 先生にもなんかとりついた？

G、元に戻る。

G ま、とにかく、戦争するのはさ、どっちも「自分が悪だ」なんて思ってやらないんだよ。両方とも「自分は正義だ」って心から信じてなきや、命なんか賭けられないよ。

F …戦争だけじゃないかもしれない。

D うん、争いって、全部自分が正義だと思ってるよね。

J 何？ じゃ、ワールドトレードセンターに突っ込んだ奴とかも？

H いやむしろ、きつと、めっちゃくちゃヒーローなんじゃないの、あっちの国じゃあ。
J うーん。

G だいぶ時間過ぎてるなあ。じゃ、沖縄に実際行って、いろいろ見て、各自よく考えてくれ。
挨拶なしでいいから。

G、下手に去る。生徒、ばらばらと立ち上がる。K入ってくる。それぞれざわざわする教室内。
Lが呼びかける。

L ねえ。あんたたち。

A …何？

L 興味深い授業だったよね。

F まあね。

J 興味深いって？

L この子たち、「正義の味方」なんだって。

H きゃあ、かっこいい！何かあったら助けてね。

L 頑張って。

笑いながら、H I J L上手に退場。間。

D なんか、あの頃と同じ空気流れたよね。

K あの頃？

D バレー部でいじめ始まった頃。

B うん。あの頃は初めてでなんか分からないままだったけど。

C 今度是对処間違えないようにしないと。

E うん。

F でも。

A 何？

F 本当に同じかな。

B どういうこと？

F 正義は、私たちに…ある？

見つめ合う。M E。暗転。

溶明。教室風景。

G さてと、説明はこんなところかな。どれがいい？

E パインジャム作り。

C 沖繩…って感じ。

H サーターアンドギー捨てがたくない？

G それな、イヤってほどできるから、昼飯いらなくなるぞ。

B 私、琉球ガラスがいいな。

D 割れ物だけど持って帰れるんですか？
G んー、後でまとめて送ってくるらしい。
D なるほど。
J 貝殻のストラップもいいかな。
L ああ、旅行中付けてられるしね。
G ま、そんなとこかな。じゃあ、修学旅行三日目、クラス別体験。どうやって決めよう？
E 多数決。
L えー、もつとちゃんと意見交換した方がいいと思います。
G そうだな。じゃ、何か意見。
L はいはい。やっぱり、せっかくクラスで一緒にやるんだから、食べて終わりより、何か記念に残るものの方がいいと思う。
G なるほど。
L ねえねえよくない？ 旅行の後半、クラスみくんなお揃いのストラップ付けてるの。
H いいかも！
L でしょ？ ねえ、そっちも賛成してよ。
C んー。いいけどさあ。
E 私やっぱりパインジャム。
L 買えるじゃん、こっちでも。
E 作らないでしょ。
H 買った方がおいしいって。

E 作って食べた方がおいしいって。
L それ単にお腹がすいたから。
E 私のお腹は常にすいてるの！
H それ自慢？

SE。
I なんです。騒々しい！
F …今日は何？

ME。
I だってかあさん、カツオが。そうよ、お兄ちゃんたらひどいのよ。違うよ、ねえさんが。なつとらん！
I くだらんことでけんかなんぞしおって。まあまあ、お父さん、こっちで将棋でも。ボクもやりましゅ。
A サザエさん一家がまるごととりついたらしい。

I ミヤア。
B タマもか。
G じゃあ、しばらく時間やるから、意見調整してくれ。席立っていいから。

G、教壇を下りる。LがH・I・Jを従えるようにして六人に近づく。

L ねえ、どうしても貝殻駄目？
H クラスで楽しくやろうよ。
J いいじゃん。仲良く同じストラップ。
F ねえ、聞きたいんだけどさあ。
H 何？
F いつの間に、そんなびちゃつとつるんだわけ？

三人、えへへへと顔を見合わせる。
Lの合図で制服の前を開けると、みなおそろいの気味の悪いマークのついたTシャツを着ている。
激しくME。

D うわ、ともだちTシャツ。
E ほしい！

F、Eの頭をはたく。

E いてっ。
F 何のマネ？
L 「ともだち」になった証が何かあった方がいいかなって。

H で、ちょうど流行ってるし。
G なんだか気味悪いデザインだな。
A え。先生知らないんですか？
G 何？
A 漫画で世界征服をたくらむ、謎の集団のマークですよ、あれ。
C 知らないうちにどんどん仲間を増やして、世の中を思い通りにし始めるんです。
G そりゃ、ちょっと問題あるなあ。学校でみんなして着るのはシャレにならないぞ。

L、あごで合図する。H・J、Gを拉致して、上手袖に引っ張り込む。

G おい！ くら何するんだ。放せ！

ME 激しく流れる中、袖幕から、G必死に脱出しようと、体半分が覗くが、そのたびにひっぱり戻される。
その間、Gの抵抗する声が聞こえる。何度目かにいきなりにつこりしながら食堂のおばちゃんが覗く。やがて、ゆっくりとGが出てくる。「ともだち」Tシャツを着ている。

六人 先生！

G まあ、なんだ。みんなで仲良くな。じゃ。

G、ぼくと下手へ移動。七人が口々に呼びかけるが、反応はない。やがて下手に退場。

F やっぱり当てにはなんないか、教師は。
L それは、あんたたちも一緒じゃないの？
B 何？
L なんてあんたたちつるんでんの？ 当てになるの？ お互い。
E 当たり前でしょ！
L へえ！ いじめていじめられて、絆が深まった？
D 誰がやらせたのよ！
L でも、やったのは自分たちでしょ。それとも何？ あたしを悪者扱いしてるから、結束してられるの？
皆・・・。

L、紙袋からばさばさとTシャツを落とす。

L あげる。気前いいでしょ。仲良くやろうよ。

K、下手から入ってくる。

K …ふざけんよ。

L …何？ ってか誰？

K 転校生が頑張ってもだち増やすのはいいよ。昔のことはあたし直接知らないから、それもいい。でも、

なんか変だよ、あんた。不自然だよ気持ち悪い。だからあたしたちは絶対着ない！

LがKの背後を指さす。いつの間にか、そうっとEがTシャツを着ようとしている。

K って何着てんだよ！

E だって、ともだちTシャツ…。

K 欲しくても意地張らなきゃいけない時があるの！ 大事なものを守るために！

E、しびしびシャツを山に戻す。それをKがかき集めて、Lの手にどさっと渡す。

K 持ってって。

L、シャツの山をどさっとHの手に渡すと、ぷいっと上手に去っていく。他の者も従う。A B C D F、へたと椅子に座る。Kはまだ上手をにらんでいる。Eはそれを見つめながら、かばんから花を取り出し、一枚ずつ花びらを取り始める。

A もしかして、あんた、椎名に？

E うん……こしひかり。

五人、固まってじゅっつと考える。B、ポンと手を打って。(ポンはMEで入れる)

B …ひとめぼれ？
E あんつ、せっかく婉曲に表現したのに。
D かわいくない！

E、Kの背後に駆け寄り、花を捧げる。

K えっ？

E 付き合ってください。

K はあ？

K、徐に正座をし、重そうな長いものを目の前に置く仕草。着物の袖を払う仕草の後に、それを弾き始める。琴の音のME。ひとしきり奏でてから合掌し、それを空手で「ハッ」。皆、しばらく固まるが、B、ポンと手を打って。(ポンはMEで入れる)

B …こと・わる？

四人「あゝ」と納得。間髪入れず、Eは大声で泣き始める。

E うおくん。

A 泣かないで。
B しよせんは実らぬ恋だから。
F …でもこれで宣戦布告になっちゃったか。
K あ、ごめん。勝手に。
B ううん。ありがとう、言ってくれて。
C ほんと、すっきりした。
D わたしもほれた。
K やめてよ。
F あく、でもあたしたちがあれを言えなきゃいけないのにな。
E うん。
K どういうこと？
B 言ったでしょ、バレー部の話。
K あ、うん。
B きっぱり言えなかったのよ、あたしたち誰も。こんなことやめよって。
C なんてだったのかなあ。
D 金縛りになったみたいだったよね。
E 弱いんだよね、声が大きい人に対して。
K あんたじゃん。
E ってか、何？ ずばつと言える人っていうこと。
D 思うんだけど、一番下手だった最初の子に対してはさ、もともとなんとなくみんなバカにする感じ持っ

- てたんだよ。
K みんなって。
D みんな。はつきりいっちゃえば、あたしたち？
B そうかも。
D そのなんとなくの空気をさ、はつきり口にしてくれたのが真実子だったんだよ。だから、それにみんなのつかっちゃったんだ。
A そのうち、あの子も調子に乗ってきて、気が付いたら誰も逆らえなくなってた、みたいな。
K なるほどねえ。分かる気する。
F だから、もう二度とそんな空気を作らないぞって、みんなで話して。
K で、正義の味方。

皆、うなづく。

- F なのに、結局はつきり言ってくれたのは椎名。情けないよね。
K ちよっと待って。ここであたしをヒーロー扱いしたら、同じことになんない？
A あ。
B 確かに。
F そうだね。また、はつきり言える人に乗っかるとこだった。どうしたらいい？
E パインジャム！
A まだこだわるか？

- C でも、クラスみんなでやることだからさあ、思い通りに決められると。
B うん。そこがきつかけになりそうな気がするね。
E 打倒！ 貝殻ストラップ。
F 少しばかりかしい気もするけど、ま、パインジャム押し通してみるか。
K 押し通すって？
F 情報集めようよ。パインジャムこんなにいいよって。
K ああ、それならあたしも協力できるか。
C 光、あなたの希望、みんなで通すんだから、一番頑張つてよ。
E うん。六月に修学旅行済んだ友達いるから、電話して聞いてみる。
A あ、それいい考え。
F よし、じゃ、行動開始。
皆 おーっ。

皆が拳を突き上げてストップモーション。ME。ゆっくり暗転。

溶明。教室風景。Lが机で携帯をいじっている。そこへ、下手からバレーボールがポンポンと弾んでくる。Lがそれをキャッチする。下手からF登場。

- F 「ともだち」は増えた？
L かなり。
F よかったね。

L ありがとう。
F あたしたちも増やすから。パイنجヤム仲間。
L 何ムキになってんの？
F ともだちTシャツ着たくないからさ。
L 別にいいけど。
F じゃ、それだけ伝えとくね。(ボールを奪って) さよなら。
L あのさ。
F 何？
L あたしのこと、絶対嫌いだよね。
F 確認しないと分からない？
L …。

F、上手に去る。少し後に、L、下手に去る。入れ替わりに、上手から携帯で話しつつ、Eが入ってくる。

E あ、やっと通じた。ひさしぶりい。(あ、ひさしぶり。元気?) うん、元気元気。あのさあ、あんたもう修学旅行終わっ…。(あ、そうだ、〇〇来たでしょ。) え? ああ、うん。(こんな時期の転校でびっくりしなかった?) そうそう。(だよね。) うんさすがに。(〇〇、雰囲気変わってない?) まあね。(え? 弱々しい感じじゃないの?) え? (こっちでいじめられてたからさ。) ほんと? (ほんと、かなりやばかった。) 何それ。どういうこと? (いじめの状況の説明) うん…:うんうん。…うん。…そっか。(だから、まああんたたちもいろいろあってけどさ、やさしくしてやってくれる?) ああ、そうだね、(で、

何だっけ? 用事。) あのう、またかけるわ。(え? そう。) ありがとね。それじゃ。

E、携帯を切る。しばらく考え込む。暗転。ME。

溶明。教室やや上手寄りにHIJL話している。

L じゃあじゃあ、これ聞いて聞いて。おでんくん。「でんでん。だいこんせんせ〜」
他 お〜。
L はい次、祐里。
H え〜。じゃあ、(ポーズ) 広末涼子!
他 えー。
L 小振りのしずちゃん。
H ばきゅん。
他 あー。
L じゃあ次。(Jに)
J うわあ。えーと、「博士! 今助けに行きます!」
H …誰?
J アトム。
I 似てる!
H そうなの?
L じゃ最後。

- I 「おく、オラ野原しんのすけ五歳。」
J 今のは、物真似？ 憑依？
I 「そうともいう。」

というようなやりとりの途中、E、上手から入ってくる。一度、四人の脇を通り過ぎて自分の机に行き、かばんから何かを取り出して、しばらく迷った末、四人のそばに座る。四人、気付いているがしばらく無視。E、身乗り出して、四人の目の前に「とっと何かを置く。パインジャムである。」

- L …もう分かったよ。あくまでパインジャム主張？ 成実にも昨日言われたし。
E バローで売ってた。
H そりゃ売ってるでしょ。
E おいしかった。
J まあ、そりゃ、それなりにね。
E めっちゃおいしかった。とまらなくなってパン一斤食べ尽くした。
I 一斤って、(手で示して)これ？
E (うなづく)
皆 うそ。
E …だから。
L だから？
E 十分満足。

- H そりゃね。
J 何が言いたいわけ？
E だから、…貝殻にする。
皆 …ハ？
E そういうことだから。
皆 …。
L そっかあ。ああ、そういうことかあ。へええ。

六人、下手から登校してくる。手に手に、パインジャムの楽しさを主張するためのグッズを持っている。Dはパインのかぶりものをかぶっている。

- C おまえのかわいいってのはそれか？

がやがやしなながら、入ってくるが、Eの姿を認めて、びっくりする。しばらく見つめた後、AとB、Eを下手にひっぱってくる。

- A どういうことよ？
B スパイでもしてんの？
E (首を振る)
C じゃ、何？

D 黙ってちや分かんないでしょ。
K なんてあんなとこに座ってるわけ？
F 怒らないから言ってみ。
E …あたし、貝殻にする。
F は？
A どうして？
C なんていきなり裏切ってたよ。
D …あたしを見て。
E、Dを見つめるが、思わず目をそらす。
D 目をそらさないで！ この頭を直視して、もう一度同じことが言える？
E あたし、貝殻にする。
D 言った…。
B どうしたの？ あ、もしかして。
K 何？
B そんなにともだちTシャツが着たいか？
K ああつ。
E (必死に首を振って、輪の中から逃げる)
L Tシャツは要らないって。

F …真実子、何したのよ、一体。
L 何もしないって。
A うそ。
H 朝、いきなり来たんだって。あたしたちもびっくりした。
J うん。なんでなのか、全然分からないけど。
L ねえ、あたしも聞きたい。なんでこっち来たの？ ま、歓迎はするけどさ。
間。G、下手から入ってくる。異様な雰囲気にはびっくりするが、間に割って入ろうとする。
G どうした？ 何かあったか？
背後から、Dが引き留める。G、振り向いて驚く。D、気づいてかぶり物をとる。
G、Dに下手に引っ張って行かれる。
B ねえ、なんとか言ってみよ。意味分かんないよ。
J 私も聞きたい。なんかあんの？
E ……
C ああ、もう！ よりによっていきなり発案者が裏切ってどうすんの！
F …笑ってるでしょ。
H いや驚いてるけど。

F 真実子よ。またこいつら裏切りだって、笑ってるんでしょ！
L …笑ってない。
F うそ。
A 絶対笑ってる。あの時みたいに、バカにしてる。
C …でも、たしかに弱いうちらが悪いんだけど。
K ちよっと、何いきなり腰砕けになってんの？
L 笑ってないよ！ 弱いことを絶対笑ったりしないよ。信じてもらえないだろうけど。
D …真実子？
I、いきなりぶるぶる震える。
ME。暴れ者キャラの芸能人が憑依。江頭2…50か。力を誇示して暴れ回り、みんなキヤーキヤー逃げ回
る。最後に、Gを下手にぶん投げる。
J 先生！
H 飛んだなあ。
B 室伏、次もメダル堅いね。
J 伊藤さん、も勘弁して。
I どうしたの？ なんか、めっちゃめっちゃ疲れてるんだけど。
F 真実子。
L …？
L さっきの…。
A ああ。…たしかに、あの頃はさ、あんたたちを弱いつて思ってた。というより、自分を特別と思ってた。
L だろうね。
L でも、そうじゃなかったんだ。みんな一緒だった。誰だって嫌になるほど弱いんだ。
D 嫌になるほど？
J ねえ、話が見えないんだけど。
I あたしも。
H 何の話してるの？
J 何かあったの？
B …いじめだよ。
J え？
F あたしたちは、全員、この子にいじめられて過ごしたのよ、中学時代を。
H ええっ？
J 何、ボスだったってこと？
L ボス…か。そんなふうでもなかったと思うけど。
F みんな弱いつてどういうこと？
L 分かったのよ、いろいろとあたしも。
A ううん、あんたには絶対分らない。
L …？

A 弱いことがどんなに辛いか、情けないか。
B いじめられた経験がないからね。
F いじめられて辛さが身に浸みてんに、もういじめられたくなくて、いじめる側に回ってしまう。
D ああ！　なんでこんなに弱いんだろう…。
C 辛い思いをしてない人が、理屈で分かっているつもりになってもウソなんだよ。
E 人はく悲しみがく（多いほどく人にはやさしくできるのでからく）。
C 歌わなくていいよ。
L …分かるよ。
F は？　まだ言う？
B あんたにだけは、分かるなんて言われたくない！
E あの！

間。

B …何？
E うそじゃないんだよ。
C は？
E ほんとに分かってるんだよ、たぶん。
L …光？
E だから、えっと…。ああつもう！　失礼します。

E、上手に足早に去ろうとする。

C おい！
D 光、ちよつと、今日大丈夫？
B あああつ、光！

皆、振り向く。E、立ち止まる。

F …何？
B 光、昨日修学旅行の情報もらうって言ってたよね。
E …。
B 電話、どこかけた？
E …。
B この辺の高校って、みんな旅行これからだよね。
D あ。
A 何？
D 私立はもう済んでるわ。
C 私立ってことは…光が丘？
E (うなづく。)

B それで聞いたんだね、真実子のこと、何か。
E …。

間。

L そういうことか。

皆、Lを見る。

L いいよ、言っても。

J どういうこと？

L だよ。知られずにいけるなんてあり得ないよね。あ、だから光こっち来たんだ、そっかあ。

H また話が全然見えないんだけど。

I 何があったの？

E …真実子、いじめられてたんだって、光が丘で。

皆 …ええっ！

B まさか。

C そんな。

D そうなの？

F 光、それ昨日の電話で聞いて？

E (うなづく。)

F だから、貝殻にしたんだ。

E (うなづく。)

C なんて言わないの！

E だって、真実子も言われたくないと思うし、でも、もう対抗するとか無理だし…。

C …バカ。

間。

C あー、何？

A そうなんだ…。

D なんか腰砕けた。

B あたしたち、何を心配してたんだろ。

F そっか。弱さが分かったって、そういうことなんだ。

K …ちよっと待って。

B ん？

K 真実子、じゃ、どういうつもりで仲間集めてたの？ なんであんなTシャツ配ってた？

L 高校入ってもさ、同じ調子でやれるつもりでいたんだよね。

K 同じ調子？

L ほらさっき言った、ボスの？ ところが、もう悲惨。みじめだねえ。あんなにみじめなものなんだね。

間。

L バレー部の子でさ、学校来なくなった子いたじゃん。まさか自分がね。毎晩、あの子の夢見た。

F どのくらい行けなかったの？

L さあ、出席日数ぎりぎりだったはず。で、取れる単位だけ取って、転校したら、あんたたちいるじゃない。怖かったあ。やられないようになるべく数集めなきゃって思って、それで。

J 何これ、そういう意味のTシャツ？

H なんやかやだ。

F : 同じだ。

A そうだね。

J 同じって？

F 真実子が来たぞ、数集めて対抗しなきゃって思ってたあたしたちも。

D うん。

B たしかに。

C 何考えてたんだろ、正義の味方なんて言って。

間。

J : でもさ、これで楽しく沖縄行けるね。みんなで。

F : ごめん。委員長、そうはならないと思う。

L : だよね。

J え？ どうして？

H これで解決じゃなかったの？

L 許せるはずがないよ、あたしのこと。今は分かる。

A うん。正直。

B 恨んではいけないと思うんだよね。

C でも、なんか染みついた黒い物が落ちないっていうか。

D うん、そんな感じ。

I 黒い物…。

E : それってさあ。

D ん？

E あたしたち同士も、だよね。

F : 言っちゃったか。

E ごめん。

I どういうこと？

A あたしたち、ほとんどの所はお互いに許してないんだよ、中学の時のこと。きっと。

C そうかも。「正義の味方」って、それを直視しないでやってくためのおまじないだったんだ。

F うちら、どこから間違っちゃったんだらうね。

L うん。どこからなんだらう。どうしたらよかったんだらう。

B いつかなれるのかなあ、何にも考えないでつきあえる日が。

SE。I、ぶるぶると震える。ルーサーキング牧師が憑依する。照明変わる。

J アメリカ人も取り憑くんのだ。

演説を延々とする。途中からMEが静かに入る。それをみんなじっと聞いている。照明戻る。

L ああ、でもなんか肩が軽い。

F うん。久し振りに。っていうか、初めてくらい？

A そうかも。

E ああつ！

C どうした？

E すごい夕焼け！

H ほんとだあ。

間。顔を染めるオレンジの前明かり。ホリゾントは夕日。静かに山崎まさよし「ワンモアタイム・ワンモアチャンス」流れ始める。

E 晴れるといいな、沖繩。

F うん。

L うん。

ME大きくなる。皆、窓枠にもたれたりして空を見つめる。ストップモーション。

幕。

引用・参考

映画・漫画

「二十世紀少年」(浦沢直樹原作 堤義彦監督) 「パコと魔法の絵本」(後藤ひろひと原作 中島哲也監督)

「崖の上のポニョ」(宮崎駿監督) 「デスノート」(大場つぐみ 小畑健 作)

テレビ番組「ウルトラセブン」「ウルトラマンタロウ」「仮面ライダー」「ドラえもん」「美少女戦士セーラー

ムーン」「アンパンマン」「ドラゴンボール」「新造人間キャシャーン」「古畑任三郎」「サザエさん」

小説「太陽の子」(灰谷健次郎)

歌・音楽

「ウルトラセブン」のテーマ 「アタックナンバーワン」のテーマ 山崎まさよし「セロリ」「ワンモアタイ

ム・ワンモアチャンス」 EXILE「チューチュートレイン」 海援隊「贈る言葉」

演説 ルーサー・キング牧師